

比企における弥生～古墳時代前期の集落の立地について

中山 浩彦

はじめに

昭和60年代のバブル景気により株価や地価が高騰が続いたのも、まるで泡のように弾けて経済が一気に冷え込んだ結果、公共・民間の大規模工事等に主要因をおく発掘調査も大きな影響を受けた。右肩上がりが増え続けていた遺跡の発掘調査件数も、平成8年度をピークにして、全国的に減少化傾向にある。埼玉県では不景気の波を大きく受け、平成4年度のピーク時に500件あった発掘件数が平成16年度には213件にまでほぼ半減し、昭和50年代後半の件数にまで落ち込んでいる状況である。遺跡の取り扱い基準の適用により、遺跡を掘らずに保存する方向にシフトされた体制の変化もあり、調査件数の減少化傾向にある。埼玉県では、これまでに高速自動車道・新幹線建設、工業団地建設、圃場整備、ゴルフ場造成等による大規模な開発により、遺跡は破壊されてこの世から消滅してしまっただが、調査担当者等の努力により新しい知見が加わり、考古学研究の発展に大きな成果を上げてきた。比企地域においても平成4年度の51件の発掘件数が、近年では年間20件前後に減少している。

将来的に発掘調査件数が飛躍的に増加するとは考えにくく、比企地域における発掘調査の成果をここで一旦まとめておく必要性を感じた。そこで本稿では、まず該期の集落立地について検討することにしたい。

1 比企地域の地形概略

比企郡は、埼玉県のほぼ中央に位置し、埼玉県の形をそのまま縮小したような東西に細長い形状を呈した地域である。昭和40年代の一時期にはゴルフ場建設等による開発の波が押し寄せたが、今でも各地の至るところには里山の景観を多く残している自然豊かな地域である。

地形的には、関東山地の東端にあたる外秩父山地の外縁にあり、郡内の市町村の大半が広義の比企丘陵上に位置している。比企丘陵は、北側は荒川により櫛挽台地と、南側は越辺川により入間台地と南北にそれぞれ大きく分断されている。また、比企丘陵の北側にある江南台地は東流する荒川水系の和田吉野川により分断される。標高は秩父に近い地点の西側では約180m、東側では約80mを測る。ほぼ中間を流れる都幾川の開析谷によってさらに南北に二分され、北側を比企北丘陵（比企丘陵）、南側を比企南丘陵（岩殿あるいは物見山丘陵）と呼称されている。比企北丘陵の東端に舌状に残る丘陵は、吉見丘陵といわれ、吉見百穴、黒岩横穴墓群といった古墳時代後期の横穴墓群が構築されている。また、市野川と都幾川に挟まれた洪積台地は、東松山台地と呼ばれ、沖積地との比高差も10m前後であることから、比企南丘陵の先端に正三角形をした洪積台地である高坂台地とともに、比企地域で特に遺跡が密集した範囲となっている。各丘陵や台地には大小河川によって開析された小さな谷がハツ手状に入り組み、さらに複雑な地形を呈している。また、比企郡西部に位置する吉見町から川島町にかけては、沖積地である標高15m前後の荒川低地が広がりを見せ、荒川や市野川によって形成された自然堤防が発達している。

2 集落の様相 (第1図・第1表)

本項では現在の行政区分に従って、各時期の遺跡や遺物について概観することにする。なお、当地域では弥生時代前期から中期前葉までの遺構・遺物はこれまでに確認されていない。

(a) 東松山市

当市は、水稻可耕に適した沖積地を望む台地や丘陵部が発達しており、且つ昭和30年代以降からの大規模開発に伴う発掘調査件数が多いことから該期の遺跡が多数確認されている。

弥生時代中期の遺跡は、岩鼻遺跡(1)、雉子山遺跡(2)、附川遺跡(3)、西浦遺跡(4)、天神原遺跡(5)、代正寺遺跡(6)、大西遺跡(7)、銭塚遺跡(8)、反町遺跡(9)で集落跡などが検出されている。岩鼻遺跡は、県西部の弥生時代中期から後期にかけての櫛描文系土器の標式遺跡となった遺跡で、昭和35年のC区の調査を鎬矢にして数次の発掘調査が実施されている。調査の結果、弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけての住居や方形周溝墓、古墳時代後期の古墳群が検出されている。代正寺遺跡は、高坂台地のほぼ中央に位置し、弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけての住居跡が89軒、弥生時代後期の方形周溝墓14基、古墳時代前期の方形周溝墓1基などが検出された大規模集落である。高坂台地では、古墳時代後期においても20m級の小円墳で構成される古墳群や集落が形成され、弥生から古墳時代にかけての遺跡が集中していることから、比高差10mの沖積地を臨むこの台地一帯は集落を営むには絶好の適地であったことがうかがえる。

後期では、吉ヶ谷遺跡(10)、八幡遺跡(11)、観音寺遺跡(12)、籠田遺跡(13)、東形遺跡(14)、高坂三番町遺跡(15)、杉の木遺跡(16)、桜山古墳群(17)、根平遺跡(18)、駒堀遺跡(19)などで調査が実施されている。吉ヶ谷遺跡は、比企北丘陵上に立地する、弥生時代後期の標式遺跡となっている遺跡である。ゴルフ場造成に伴い、住居跡が1軒調査されているが、集落像は不明な点が多い。駒堀遺跡は、比企南丘陵の標高60mの尾根先端部に位置し、吉ヶ谷期と五領期の集落のほぼ全域が調査された。吉ヶ谷期の集落は2時期7軒単位で構成されていたと考えられている。住居は、長方形プランを呈し、床面に複数の炉を設けるものが多い。遺物は、ミニチュア土器が多量に出土しているのが特筆される。遺物散布地では、宮本遺跡(20)、緑山(21)、上後原遺跡(22)、高坂一番町遺跡(23)、高坂二番町遺跡(24)、大門遺跡(25)、岩の上遺跡(26)、古吉海道遺跡(27)、鷲神社裏遺跡(28)、かんべ塚(29)、下松古墳群(30)、向台遺跡(31)、庚塚(32)、中打出遺跡(33)、扇谷遺跡(34)などがある。

古墳時代前期では、上松本遺跡(35)、五領遺跡(36)、番清水遺跡(37)、下道添遺跡(38)、古凍根岸裏遺跡(39)、下寺前遺跡(40)などで調査が実施されている。五領遺跡は、南関東の古式土師器の標式遺跡となった遺跡で、正式な調査報告書が未刊のため集落の実態は不明であるが、出土遺物において東海・北陸・畿内・山陰系などの外来系土器が多量に出土し、その特異性が際立つ遺跡である。番清水遺跡では、約14mの大形住居跡や一辺約22mの大形方形周溝墓1基などが検出されている。五領遺跡にも近接しており、当地域の支配者の動向を考える上で重要な遺跡である。沖積地に向かって細長く張り出した松山台地先端部では、下道添遺跡、古凍根岸裏遺跡から弥生時代終末から古墳時代前期にかけての方形周溝墓群が検出され、東海系の土器が多数出土している。

(b) 小川町

町域では古墳時代前期の集落が1ヶ所確認されているのみである。

越祢遺跡(1)は、標高約65mの台地緩斜面に営まれた集落跡である。3回の調査が実施され、古墳時代前期の遺構は、第1次調査で一辺約5mの方形の住居跡が1軒検出された。住居跡床面直上からS字甕や埴などが出土している。床面が焼けていることから、消失住居の可能性が高い。

なお、本集落北側の丘陵上に前期古墳の可能性が指摘されている新田第1号墳、鷹巣山古墳の2基の小円墳が存在する。

遺物散布地としては、弥生時代後期の宮ノ脇遺跡(2)、小坂遺跡(3)、古墳時代前期では日向遺跡(4)、峯原遺跡(5)、岡原遺跡(6)が確認されている。

(c) 川島町

町内を東西方向に横断する圏央道建設工事による発掘調査や町史編纂事業に伴う分布調査などにより、近年まで該期の遺跡の空白地帯であった当地域においても、弥生時代末から古墳時代前期にかけての様相が次第に明らかになりつつある。

村並遺跡(6)では、弥生時代中期と思われる条痕文土器の破片がトレンチ内から出土しており、荒川扇状地で検出されている北島遺跡、池上遺跡のような弥生時代中期後半の集落が自然堤防上に展開していた可能性も考えられ、今後の調査が期待される遺跡である。

弥生時代後期段階は不明な点が多いが、古墳時代前期になって遺跡数が爆発的に増加する。荒川が形成した自然堤防上には、平沼一丁田遺跡(1)、白井沼遺跡(2)、富田後遺跡(3)、元宿遺跡(4)、尾崎遺跡(5)などの遺跡が調査されており、溝を方形に区画した周溝と呼ばれる遺構が各遺跡から多数検出されている。形態が近似する方形周溝墓や竪穴住居跡も同一遺跡内には検出されており、大部分の遺跡が現在も調査中であるため詳細は明らかになっていないが、低地部の集落構成を考える上で今後注目すべき地域である。

白井沼遺跡は、第2次調査で住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、周溝5基、井戸跡2基などが検出された。該期の遺構同士の重複が著しいが、弥生時代後期や古墳時代中期以降の遺構や遺物が検出されていないことから、ごく短期間で集落が廃絶されたと考えられる。尾崎遺跡では、古墳時代前期の周溝5基、土壌1基が検出されている。

他に、古墳時代前期の遺物散布地として、西谷遺跡(7)、廣徳寺古墳(8)、大塚古墳(9)、柳町遺跡(10)、宮ヶ谷戸遺跡(11)、極楽寺遺跡(12)、安楽寺遺跡(13)が確認されているが、今後も自然堤防という立地条件から未知の遺跡が発見される可能性は高い。

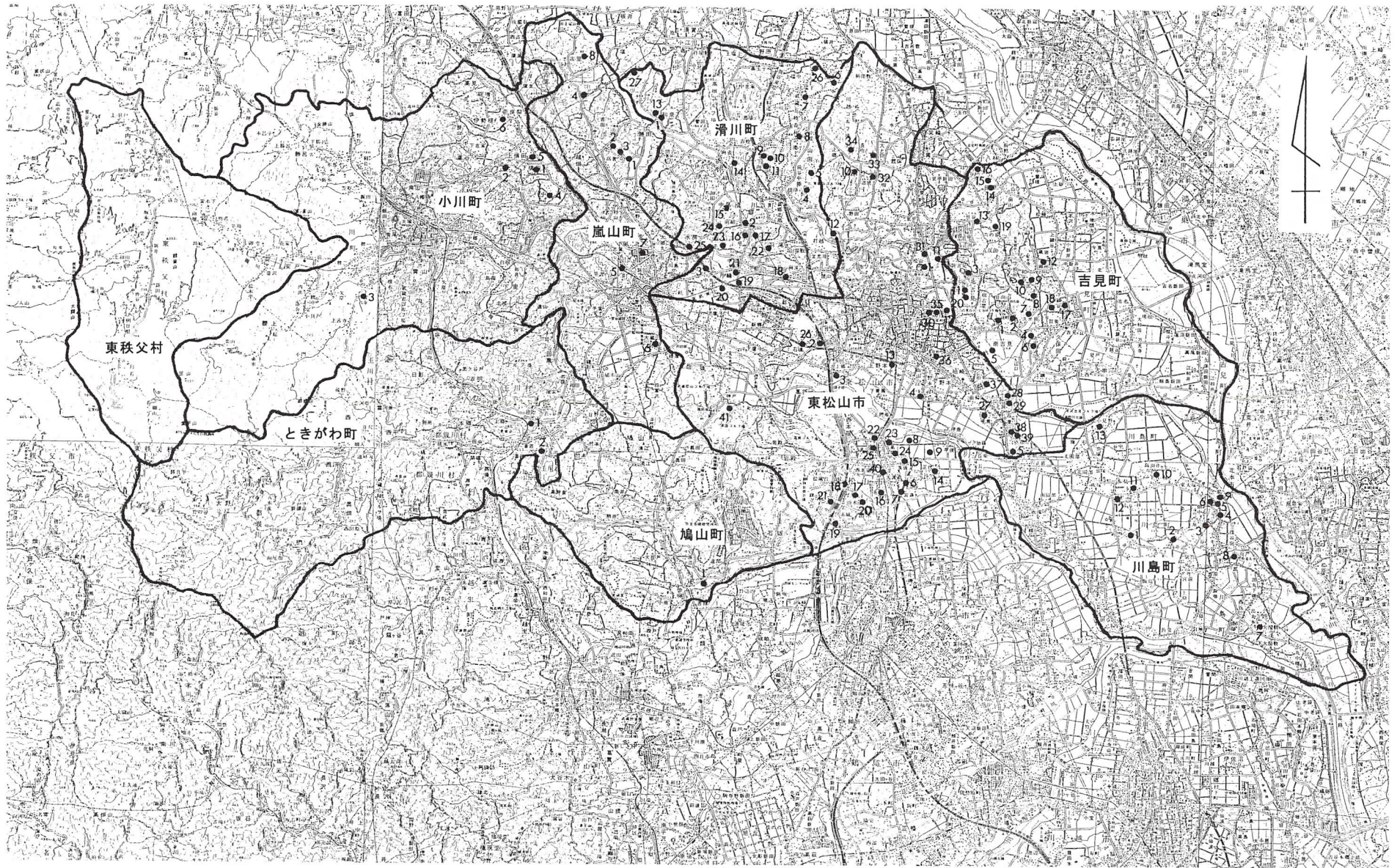
(d) ときがわ町

平成18年2月に郡西部に位置していた玉川村と都幾川町が合併してできた当町域では、これまでに大規模な開発行為が少なく、遺跡の発掘調査件数も多くないため、該期の遺跡が検出されているのは2ヶ所のみである。

破岩遺跡(1)は、標高約80mの都幾川に沿った玉川台地上に立地する弥生時代中期の遺跡である。円形の浅い土壌が1基検出され、信州の影響を強く受けた台付甕と平底の甕が各1点出土している。秩父地域では、秩父市下ッ原遺跡・藪遺跡などの中部高地系の土器を出土する弥生時代中期後半の遺跡が多数確認されており、遺跡の立地条件が類似することから今後も周辺で同時期の遺跡が検出される可能性も考えられる。衆生ヶ谷戸遺跡(2)は、都幾川が形成した標高約80mの河岸段丘上に立地する遺跡である。遺構は、井戸跡あるいは墓の可能性のある土壌が1基検出された。覆土上層から土師器の壺・甕片が各1点出土しており、五領期末から和泉期にかけての遺構と考えられる。

(e) 滑川町

町域では、丘陵上から該期の包蔵地が多数確認されているが、この時期の調査例が少なく集落の実態は不明な部分が多い。



第1図 比企郡の遺跡分布図

第1表 遺跡地名表

	番号	遺跡名	立地	標高	時代			検出遺構	備考	文献
					弥生中	弥生後	古墳前			
東松山市	1	岩鼻遺跡	岩鼻台地	35m	○	○	○	住居、周溝	土製勾玉、磨製石鏃	江原1993ほか
	2	雉子山遺跡	松山台地	30m	○	○	○	住居3	磨製石鏃4	栗原1973ほか
	3	附川遺跡	河岸段丘	30m	○?	○	○	住居6、周溝墓6	蛇紋岩製管玉	今泉1974
	4	西浦遺跡	松山台地	20m	○	○	○	住居8、周溝墓3、土壇6ほか		山本1997
	5	天神原遺跡	松山台地	20m	○	○?	○	住居、環濠?ほか		
	6	代正寺遺跡	高坂台地	30m	○	○	○	住居89、周溝墓15、土壇32ほか	土製勾玉、磨製石鏃、S字鏃	鈴木1991
	7	大西遺跡	高坂台地	25m	○	○	○	葦稻墓2(弥中)、住居、周溝墓、土壇ほか	土製勾玉、磨製石鏃(弥後)	鈴木1991
	8	鉄塚遺跡	自然堤防	20m	○	○	○	土器棺墓		
	9	反町遺跡	自然堤防	20m	○	○	○	住居、周溝墓(弥)、住居、周溝墓(古)	古墳前期の玉造	
	10	吉ヶ谷遺跡	比企北丘陵	50m	○	○	○	住居1		金井塚1965
	11	八幡遺跡	比企北丘陵	50m	○	○	○	住居、土壇墓、周溝墓ほか		金井塚1968ほか
	12	観音寺遺跡	松山台地	20m	○	○	○	住居、周溝墓	銅劍、鉄劍(弥)	渡辺1996ほか
	13	簗田遺跡	松山台地	25m	○	○	○	住居1(弥)、住居8、周溝墓?(古)	北陸系器台	村田1982
	14	東形遺跡	高坂台地	30m	○	○	○	住居、環濠?ほか	土製勾玉	宮島1999
	15	高坂三番町遺跡	高坂台地	30m	○	○	○	住居、周溝墓ほか		
	16	杉の木遺跡	高坂台地	30m	○	○	○	住居16(弥)、住居3、周溝墓1(古)ほか	土製勾玉・紡錘車	大谷2006ほか
	17	桜山古墳群	比企南丘陵	30m	○	○	○	住居3		小久保1981
	18	根平遺跡	比企南丘陵	55m	○	○	○	住居6(弥)、住居2(古)		水村1980
	19	駒堀遺跡	比企南丘陵	60m	○	○	○	住居14、周溝墓1(弥)、住居3(古)	ミニチュア土器(弥)、紡錘車未製品2(古)	谷井1974
	20	宮本遺跡	比企南丘陵	30m	○?	○?	○?			
	21	緑山	比企南丘陵	60m	○?	○?	○?			
	22	上後原遺跡	高坂台地	30m	○?	○?	○?			
	23	高坂一番町遺跡	高坂台地	30m	○?	○?	○?			
	24	高坂二番町遺跡	高坂台地	30m	○?	○?	○?			
	25	大門遺跡	高坂台地	35m	○?	○?	○?			
	26	岩の上遺跡	松山台地	45m	○?	○?	○?			
	27	古吉海道遺跡	松山台地	25m	○?	○?	○?			
	28	鷲神社裏遺跡	松山台地	30m	○?	○?	○?			大塚1988
	29	かんべ塚	松山台地	30m	○?	○?	○?			
	30	下松古墳群	松山台地	20m	○?	○?	○?			
	31	向台遺跡	岩鼻台地	35m	○?	○?	○?			
	32	庚塚	比企北丘陵	45m	○?	○?	○?			
33	中打出遺跡	比企北丘陵	45m	○?	○?	○?				
34	扇谷遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?				
35	上松本遺跡	松山台地	25m	○	○	○	住居5、周溝墓1(古)		江原2004	
36	五節遺跡	松山台地	30m	○	○	○	住居	多量の外来系土器	金井塚1963ほか	
37	番清水遺跡	松山台地	25m	○	○	○	住居1(弥)、住居23、周溝墓1(古)	大形住居・周溝墓	金井塚1968	
38	下道添遺跡	松山台地	25m	○	○	○	住居、周溝墓14ほか	東海系土器	坂野1987ほか	
39	古東根岸裏遺跡	松山台地	25m	○?	○?	○?	住居4、周溝墓7	東海系高坏	村田1984	
40	下寺前遺跡	高坂台地	30m	○	○	○	住居、周溝墓1(古)ほか	S字鏃	宮島1990	
41	茅場遺跡	比企南丘陵	80m	○?	○?	○?				
小川町	1	越前遺跡	台地	65m	○?	○?	○?	住居1	S字鏃	高橋1991ほか
	2	宮ノ脇遺跡	台地	70m	○?	○?	○?			
	3	小坂遺跡	河岸段丘	100m	○?	○?	○?			
	4	日向遺跡	台地	60m	○?	○?	○?			
	5	峯原遺跡	台地	70m	○?	○?	○?	土壇1?		吉田2005
	6	岡原遺跡	台地	70m	○?	○?	○?			
川島町	1	平沼一丁田	自然堤防	12m				周溝ほか		
	2	白井沼遺跡	自然堤防	12m				住居2、建物跡1、周溝5、井戸2ほか	S字鏃、大廓式壺	中山2005
	3	富田後遺跡	自然堤防	12m				周溝、周溝墓、井戸ほか		川島町2006
	4	元宿遺跡	自然堤防	13m				周溝10、周溝墓6ほか		川島町2006
	5	尾崎遺跡	自然堤防	13m				周溝5、土壇1	北陸系器台	津田2002
	6	村並遺跡	自然堤防	13m	○?	○?	○?			川島町2006
	7	西谷遺跡	自然堤防	12m						川島町2006
	8	廣徳寺古墳	自然堤防	12m						川島町2006
	9	大塚古墳	自然堤防	14m						川島町2006
	10	柳町遺跡	自然堤防	13m						川島町2006
	11	宮ヶ谷戸遺跡	自然堤防	13m						川島町2006
	12	極楽寺遺跡	自然堤防	13m						川島町2006
	13	安楽寺遺跡	自然堤防	13m						川島町2006
ときがわ町	1	破岩遺跡	玉川台地	80m	○			土壇1	中部高地系壺	埼玉考古2003
	2	栗生ヶ谷戸遺跡	河岸段丘	80m				土壇1		金子1982
滑川町	1	船川遺跡	比企北丘陵	70m	○	○	○	住居3(弥)、住居1(古)	土製勾玉3(弥)	金井塚1987
	2	大谷遺跡	比企北丘陵	65m	○	○	○	住居3(弥)、住居5(古)	滑石製勾玉(古)	金井塚1973
	3	屋田遺跡	比企北丘陵	50m	○	○	○	住居4(弥)、住居16(古)	土製勾玉1(古)	今井1984
	4	道越遺跡	比企北丘陵	65m				住居		
	5	新井遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
	6	道山遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
	7	弁財天遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
	8	後谷遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	9	栗谷遺跡	比企北丘陵	60m	○?	○?	○?			
	10	栗谷東遺跡	比企北丘陵	60m	○?	○?	○?			
	11	糠沢古墳群	比企北丘陵	40m	○?	○?	○?			
	12	城原遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
	13	船川西遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
	14	東西表遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	15	内郷遺跡	比企北丘陵	65m	○?	○?	○?			
	16	平谷遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	17	寺谷遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	18	両家遺跡	比企北丘陵	40m	○?	○?	○?			
	19	築地前遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	20	金熊北A遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	21	宮前遺跡	比企北丘陵	40m	○?	○?	○?			
	22	表遺跡	比企北丘陵	40m	○?	○?	○?			
	23	西平遺跡	比企北丘陵	40m	○?	○?	○?			
	24	坂の台遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	25	寺ノ台遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	26	山の上遺跡	比企北丘陵	50m	○?	○?	○?			
	27	高原遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○?	○?			
鳩山町	1	糍谷遺跡	平地部	35m				住居7、土壇1		金井塚2003
吉見町	1	大行山遺跡	吉見丘陵	50m	○	○	○	住居12、周溝墓1(弥)、住居16(古)ほか	中部高地系壺	弓1995
	2	久米田遺跡	吉見丘陵	50m	○	○	○	住居3(弥)、住居1(古)		吉見町1978
	3	八耕地遺跡	吉見丘陵	50m	○	○	○	周溝墓?1		吉見町1978
	4	三ノ耕地遺跡	荒川低地	15m	○?	○?	○?	住居、周溝墓ほか	パレス壺、前方後方型周溝墓	弓1997ほか
	5	西吉見条里遺跡	荒川低地	15m	○	○	○	水路跡、環状遺構、杭列	多量の木製品	太田2005ほか
	6	北間ノ田遺跡	荒川低地	15m	○	○	○	周溝墓		
	7	山の上遺跡	吉見丘陵	30m	○?	○?	○?			
	8	和名遺跡	吉見丘陵	25m	○?	○?	○?			
	9	丸山遺跡	吉見丘陵	20m	○?	○?	○?			
	10	萬神遺跡	吉見丘陵	40m	○?	○?	○?			
	11	十五耕地遺跡	吉見丘陵	50m	○?	○?	○?			
	12	稲荷前遺跡	荒川低地	15m	○?	○?	○?			
	13	三ノ谷遺跡	吉見丘陵	40m	○?	○?	○?			
	14	田中原遺跡	吉見丘陵	40m	○?	○?	○?			
	15	中山B遺跡	吉見丘陵	40m	○?	○?	○?			
	16	鞆柄山遺跡	吉見丘陵	40m	○?	○?	○?			
	17	下遺跡	荒川低地	15m	○	○	○			太田2003
	18	原遺跡	荒川低地	15m	○	○	○			
	19	五ノ谷遺跡	吉見丘陵	35m	○?	○?	○?			
	20	七耕地遺跡	吉見丘陵	30m	○?	○?	○?			
嵐山町	1	大野田西遺跡	比企北丘陵	70m	○?	○	○	住居25、土壇6、焼土ピット3	ミニチュア土器、土製勾玉10	佐藤1994
	2	鵜沢遺跡	比企北丘陵	90m	○	○	○	住居11、土壇1	東海系壺、土製勾玉2	川口1992
	3	芳沼入遺跡	比企北丘陵	90m	○	○	○	土壇2		川口1992
	4	姥谷遺跡	比企北丘陵	90m	○?	○?	○?			
	5	金平遺跡	比企北丘陵	60m	○?	○?	○?			村上2000
	6	行司免遺跡	河岸段丘	45m				住居11、周溝墓10	吉ヶ谷系壺、ミニチュア土器	植木1987・1988
	7	花見堂遺跡	菅谷台地上	50m				住居8	S字鏃、土鏃	金井塚1976
	8	北田遺跡	比企北丘陵	70m				住居2、土壇1	S字鏃、蛇紋岩製勾玉	植木1987

調査が実施され遺跡の内容がある程度判明しているのは、船川遺跡（1）、大谷遺跡（2）、屋田遺跡（3）、追越遺跡（4）などである。船川遺跡は、標高約70mの比企北丘陵の平坦部に立地し、弥生時代後期の住居跡3軒と古墳時代前期の住居跡1軒が検出された。弥生時代の住居跡は長方形を呈し、遺物は吉ヶ谷式の壺・甕、土製勾玉などが出土している。大谷遺跡でも弥生時代後期の住居跡が3軒、古墳時代前期の住居跡が5軒が検出されている。屋田遺跡では、弥生時代後期吉ヶ谷期の住居跡が4軒検出されており、うち1軒からはベッド状遺構が検出されている。古墳時代では、前期の住居跡16軒の他に中期の住居跡が2軒、後期の円墳9基が検出されている。比企北丘陵上の追越遺跡では、約50軒の古墳時代前期の住居跡が調査されており、滑川流域における拠点的な集落であった可能性が考えられる。

弥生時代後期吉ヶ谷期の遺物散布地は、新井遺跡（5）、追山遺跡（6）、弁財天遺跡（7）、後谷遺跡（8）、栗谷遺跡（9）、栗谷東遺跡（10）、糟沢古墳群（11）、城原遺跡（12）、船川西遺跡（13）、東両表遺跡（14）、内郷遺跡（15）、平谷遺跡（16）、寺谷遺跡（17）、両家遺跡（18）、築地前遺跡（19）がある。古墳時代前期では、金熊北A遺跡（20）、宮前遺跡（21）、表遺跡（22）、西平遺跡（23）、坂の台遺跡（24）、寺ノ台遺跡（25）、山の上遺跡（26）、高原遺跡（27）などがこれまでに確認されている。

(f) 鳩山町

武蔵四大窯跡の一つである南比企窯跡群を擁する鳩山町では、弥生から古墳時代の遺跡が希薄な地域である。標高80～100mの丘陵地帯である本地域において、水稻農耕を基盤とする生活様式を持つ集団には適さなかったものと考えられる。

これまでに調査が実施された遺跡は、糍谷遺跡（1）の一ヶ所のみである。糍谷遺跡は、中小河川に挟まれた標高35mの平地部に立地する。検出された遺構は、古墳時代前期の住居跡7軒と土壇1基である。道路幅の調査で全体を調査できなかったものがないため、住居跡の全容は不明であるが、5m前後の小規模なものが多く、床面からは炉跡が検出されていないのが特徴である。該期の遺構同士の重複はないが、出土遺物から2時期以上に分けられる。

(g) 吉見町

弥生時代中期後半の遺跡は、低湿地を望む丘陵上に大行山遺跡（1）が立地する。住居跡12軒、方形周溝墓1基などが検出されている。遺物は、宮ノ台式土器が主体を占めるが、中部高地系の甕が少量ながら出土している。また、古墳時代前期の住居跡16軒、方形周溝墓1基、後期の古墳跡9基などが検出されている。

後期の遺跡は、久米田遺跡（2）、八耕地遺跡（3）、三ノ耕地遺跡（4）、西吉見条里遺跡（5）で調査が実施されている。八耕地遺跡では、吉ヶ谷式土器を出土する方形周溝墓の可能性のある土壇状遺構が検出されている。三ノ耕地遺跡では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての住居跡、前方後方型を含む方形周溝墓群などが検出されている。西吉見条里遺跡では、多量の木製品が出土した水路跡、堰状遺構などが検出されており、丘陵上に展開していた大行山遺跡、久米田遺跡などの集落の生産域であったと考えられる。遺物散布地としては、北間ノ田遺跡（6）、山の上遺跡（7）、和名遺跡（8）、丸山遺跡（9）、萬神遺跡（10）、十五耕地遺跡（11）、稻荷前遺跡（12）、三ノ谷遺跡（13）、田甲原遺跡（14）、中山2遺跡（15）、鋤柄山遺跡（16）がある。

古墳時代前期では、上記の遺跡の他には下遺跡（17）、原遺跡（18）、五ノ谷遺跡（19）、七耕地遺跡（20）がある。下遺跡では、建物跡と考えられる周溝遺構が1基検出されている。下遺跡に隣接する原遺跡では、豪族居館跡の可能性のある大溝が検出されている。

(h) 嵐山町

弥生時代後期の遺跡は、工業団地造成により大野田西遺跡（1）、蟹沢遺跡（2）、芳沼入遺跡（3）で発掘調査が実施されている。また、同時期の遺物散布地として姥谷遺跡（4）、金平遺跡（5）などがある。大野田西遺跡・蟹沢遺跡・芳沼入遺跡ともに標高70～90mの比企北丘陵上の小谷を挟んで隣接する遺跡で、吉ヶ谷期の遺構が検出された。大野田西遺跡では、住居跡25軒、土壇6基、焼土ピット3基が検出された。住居跡は、平面形態が長方形を呈するものが多い。炉跡は床面に複数検出される例が多く、大形住居の2軒には地床炉が5基設けられていた。蟹沢遺跡は、集落域のほぼ全体が調査され、住居跡11軒、土壇1基が検出された。住居跡は一辺約4～5mの方形プランで、重複はほとんど認められていない。芳沼入遺跡は、丘陵頂部周辺から長軸約3mの大型の土壇2基が検出された。周辺に同時期の墓域が検出されていないことから、墓墳であった可能性も考えられるだろう。

古墳時代前期では、行司免遺跡（6）、花見堂遺跡（7）、北田遺跡（8）で発掘調査が実施されている。行司免遺跡は、都幾川右岸の河岸段丘上に立地し、住居跡11軒、方形周溝墓10基が検出された。該期の遺構同士の重複はほとんど認められていない。方形周溝墓のうち2基には方台部に主体部が検出されている。また、中期の住居跡45軒、後期の円墳5基も検出されている。花見堂遺跡は、市の川の沖積地に移行する台地緩斜面上に立地し、住居跡8軒と後期の円墳2基が検出された。集落は、一辺7～10mの中・大形住居と5m前後の小形の住居跡群に分けられる。北田遺跡は、後期群集墳の古里古墳群中に位置し、住居跡2軒と土壇1基が検出された。3号住居跡出土の高坏は、脚部が柱状化しており、新しい様相を示す。

(i) 東秩父村

町域の標高が100mを優に超え、水田耕作に適した可耕地が少ないことから、弥生から古墳時代にかけての遺構や遺物は検出されておらず、今後も可能性としては低いと考えられる。

3 比企における集落の特徴

前項では、各市町村毎に発掘調査が実施された遺跡および埋蔵文化財包蔵地として周知されている遺物散布地の概観を行った。これらのデータは、開発等による遺跡調査の多寡や遺跡の立地条件等により大きく左右され、地域によりばらつきが認められる。自然堤防上に立地する遺跡が多い川島町、吉見町や東松山市などの低地部の開発が進めば、将来的には遺跡が多数検出されることは確実である。当時の集落動態を第1図で示した分布図のみで論じることは困難であるが、現況においていくつかの傾向を把握することができよう。

まず第一には、比企丘陵の西部から秩父山地に至る小川町、ときがわ町、鳩山町、東秩父村域では該期の遺跡分布密度が薄いことがあげられる。この点については、前項でも前述してきたように水稻農耕を主な生活基盤としていた弥生・古墳時代の集団が、標高100m前後の開発困難な土地を避け、より可耕に適した土地を選択したことが要因であると考えられる。

第二に、河川別で見た場合、該期の遺跡は越辺川と都幾川が合流する地点に位置する高坂台地と滑川、粕川などの市ノ川水系に集中している。一方、越辺川、槻川、都幾川の上流域では、該期の集落がほとんど確認されていないがこれについても、前述したように地形的条件による要因が大きいと考えられる。和田吉野川は、主に低地部を流路としているため、周知の遺跡がほとんど確認されていないが、熊谷市下田町遺跡のような大規模な集落跡が自然堤防上に検出される可能性が高い。

第三には、比企丘陵上を選地した集落の多くが、松山・高坂台地の集落と比較し、継続期間が比

較的短期であるという特徴があげられよう。標高50mを超える比企丘陵上に立地する遺跡の多くは、単位集団が10戸にも満たない小規模な集落構成をしており、一つの土器型式内で集落が廃絶されている。台地部の肥沃な低地部を控えた遺跡と比べ、畑作が主体となったと考えられる集落では、土地が疲労し、水資源にも乏しく、長期的な定住生活には不向きであったことが要因として考えられる。そのため、短期間で集落を移動せざるを得なかった結果と考えられる。川島町の自然堤防上の古墳時代前期の集落でも同様の傾向が認められるが、自然堤防上という立地条件から、河川の氾濫等による自然災害により集落を廃絶せざるを得なかったことが考えられる。

標高30m前後の高坂、松山台地上に立地する遺跡では、弥生時代中期後半から集落が形成され始め、古墳時代後期までの長期間、継続的に集落が営まれる拠点的な集落が多く認められる。水稻農耕を営む沖積地を臨む格好の適地であり、集落を継続していくための条件が揃っていたと考えられる。また、越辺川と都幾川の合流地点に位置する高坂台地上の代正寺遺跡、大西遺跡、高坂一～三番町遺跡などと低地部の銭塚遺跡、反町遺跡のように、同時期に台地上と沖積地に住み分けされた集落跡が検出されており、どのような集団体制であったのかは、詳細が公表されてからの検討課題としてあげられる。

最後に、吉ヶ谷式土器を主体とする集落は、沖積地を臨む丘陵端部や台地縁辺部に占地し、岩鼻式土器を主体とする集落は台地縁辺部から自然堤防上の微高地に占地する傾向があると金井塚氏らによって指摘されてきた問題がある。台地や丘陵上での調査事例は確実に増加しており、吉ヶ谷式土器を主体的に使用する集落跡の検出は増えているが、岩鼻式土器を主体にした集落跡の検出例が増えていないため、現段階においてもそれを立証できるような集落跡は検出されていない。ただ近年、吉ヶ谷式土器を主体的に出土する遺跡の中に、岩鼻式が客体的に出土する遺跡が検出されており、それらの遺跡を詳細に検討することにより、異型式の土器を使用する集団の関係性が明らかになる可能性がある。

おわりに

比企地域における弥生時代から古墳時代前期にかけての集落立地についての概観を行い、何点かの傾向を見出すことができた。本稿では、筆者の準備不足等もあり、各遺跡出土遺物の検討・分析を行えず、遺跡の時期については報告書記載の時期に準拠しているため、極めて雑駁なものとなってしまった感が歪めない。今後、吉ヶ谷式や岩鼻式土器の問題を含め、該期の集落として比企地域に特有の傾向が認められるのか、詳細な検討を加える必要がある。各遺跡の出土土器などの詳細な分析により、比企地域における単位集団の動態を探究できればと考えている。

また、本稿では遺構の問題についても論じることはできなかったが、川島町内で近年数多く検出されている「周溝」遺構については、従来から言われてきた古墳時代前期の墓制でよいのか、あるいは低地部特有の居住施設、祭祀施設なのかも検討事項として残されている。今後新たに機会を設け、該期の遺物・遺構の各論により当地域の集落像の解明を試みたいと考える。

参考文献

- 今井宏・井上尚明ほか『屋田・寺ノ台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第32集 1984
- 今泉泰之ほか『田木山・弁天山・舞台・宿ヶ谷戸・附川』埼玉県遺跡発掘調査報告書第5集 埼玉県教育委員会 1974
- 植木弘『古里古墳群一北田遺跡・上土橋支群・駒込支群の発掘調査一』嵐山町遺跡調査会報告2 嵐山町遺跡調査会 1987
- 植木弘『行司免遺跡一遺構図版編一』嵐山町遺跡調査会報告3 嵐山町遺跡調査会 1987

- 植木弘『行司免遺跡—本文編—』嵐山町遺跡調査会報告4 嵐山町遺跡調査会 1988
- 植木弘『行司免遺跡—遺物図版編—』嵐山町遺跡調査会報告5 嵐山町遺跡調査会 1988
- 江原昌俊『岩鼻遺跡(第2次)』東松山市文化財調査報告書第21集 東松山市教育委員会 1993
- 江原昌俊・長井正欣『上松本遺跡(第2次)』東松山市遺跡調査会発掘調査報告書第2集 東松山市遺跡調査会 2004
- 太田賢一「吉見町三ノ耕地遺跡の調査」『第31回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか 1998
- 太田賢一『下遺跡』吉見町遺跡調査会発掘調査報告書 吉見町遺跡調査会 2003
- 太田賢一『西吉見条里遺跡—第1分冊—』吉見町埋蔵文化財調査報告書第2集 吉見町教育委員会 2005
- 大谷徹『杉の木遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第323集 2006
- 大塚実ほか『八幡・原山・古吉海道』東松山市文化財調査報告書第17集 東松山市教育委員会 1988
- 小川町『小川町の歴史 資料編1 考古』1999
- 小川町『小川町の歴史 通史編 上巻』2003
- 金井塚厚志・原野真祐・渡辺一『今宿東遺跡群I—天神台・天神台東・糎谷・小路谷・台遺跡発掘調査報告書—』
鳩山町埋蔵文化財調査報告第27集 鳩山町遺跡調査会・鳩山町教育委員会 2003
- 金井塚良一『五領遺跡B区—発掘調査中間報告—』東松山市教育委員会 1963
- 金井塚良一「東松山市天神裏遺跡第一次調査」『埼玉考古』第2号 埼玉考古学会 1964
- 金井塚良一「埼玉県東松山市吉ヶ谷遺跡の調査」『台地研究』16 台地研究会 1965
- 金井塚良一「五領遺跡C区—発掘調査—」『埼玉考古』第3号 埼玉考古学会 1965
- 金井塚良一『番清水遺跡』考古学資料刊行会 1968
- 金井塚良一・大塚 実『八幡遺跡』東松山市文化財調査報告第5集 東松山市教育委員会 1968
- 金井塚良一『中原遺跡』東松山市文化財報告第10集 東松山市教育委員会 1972
- 金井塚良一『大谷遺跡』滑川村教育委員会 1973
- 金井塚良一『花見堂』嵐山町教育委員会 1976
- 金井塚良一・高柳茂『船川遺跡』船川遺跡調査会 1987
- 金子直行『衆生ヶ谷戸』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第12集 1982
- 川口潤『蟹沢・芳沼入・芳沼入下・新田坊尺尻・尺尻北・大野田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第119集 1992
- 川島町『川島町史 資料編 地質・考古』2006
- 栗原文蔵・野部徳秋ほか『岩の上・雉子山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第1集 埼玉県教育委員会 1973
- 小久保徹『桜山古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第2集 1981
- 小峰啓太郎『杉の木遺跡』東松山市文化財報告第2集 東松山市教育委員会 1963
- 小峰啓太郎『雉子山』市史編さん調査報告第8集 東松山市 1977
- 埼玉県『新編埼玉県史 別編3 自然』1986
- 埼玉県教育委員会『埼玉県埋蔵文化財調査年報(平成16年度)』2006
- 埼玉考古学会『北島式土器とその時代—弥生時代の新展開—』埼玉考古別冊7 2003
- 佐藤康二『大野田西遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第138集 1994
- 鈴木孝之『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集 1991
- 高橋好信『町内遺跡発掘調査報告書I』小川町埋蔵文化財調査報告書第1集 小川町教育委員会 1991
- 高橋好信・保田義治『町内遺跡発掘調査報告書III』小川町埋蔵文化財調査報告書第3集 小川町教育委員会 1993
- 谷井彪・野部徳秋ほか『駒堀』埼玉県遺跡発掘調査報告書第4集 埼玉県教育委員会 1974
- 玉川村『玉川村史 通史編』1991
- 津田福治・小峰啓太郎『尾崎遺跡』川島町遺跡発掘調査報告書第1集 川島町教育委員会 2002
- 都幾川村『都幾川村史資料 2』考古資料編 1998
- 都幾川村『都幾川村史 通史編』2001
- 中山浩彦『白井沼遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第315集 2005
- 滑川村『滑川村史 通史編』1984
- 坂野和信『下道添遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第67集 1987
- 東秩父村『東秩父村の歴史』2005
- 東松山市『東松山市史 資料編第1巻』1981
- 東松山市『東松山市の歴史 上巻』1985

- 水村孝行・今井宏『根平』埼玉県遺跡発掘調査報告書第27集 埼玉県教育委員会 1980
- 宮島秀夫『岩鼻遺跡』東松山市文化財調査報告書第18集 東松山市教育委員会 1989
- 宮島秀夫・江原昌俊『下寺前遺跡（第2次）』東松山市文化財調査報告書第19集 東松山市教育委員会 1990
- 宮島秀夫『観音寺遺跡（第2次）』東松山市文化財調査報告書第22集 東松山市教育委員会 1995
- 宮島秀夫「銅釧・鉄剣出土の方形周溝墓 観音寺遺跡4号方形周溝墓」『比企丘陵』創刊号 比企丘陵文化研究会 1995
- 宮島秀夫「東松山市東形遺跡（2次）の調査」『第32回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか 1999
- 宮島秀夫『杉の木遺跡（第3次）』東松山市文化財調査報告書第24集 東松山市教育委員会 2003
- 村上伸二『金平遺跡II』嵐山町遺跡調査会報告9 嵐山町遺跡調査会 2000
- 村田健二・石川俊英『籠田・鶴田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第20集 1982
- 村田健二『古凍根岸裏』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第37集 1984
- 山本禎・西井幸夫『山王裏／上川入／西浦／野本氏館跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第184集 1997
- 弓明義「吉見町大行山遺跡の調査」『第27回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか 1995
- 弓明義「吉見町三ノ耕地遺跡の発掘調査」『第30回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか 1997
- 弓明義「吉見町西吉見条里II遺跡の調査」『第35回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会ほか 2002
- 吉田義和・新井貴『町内遺跡発掘調査報告書XI』小川町埋蔵文化財調査報告書第23集 小川町教育委員会 2005
- 吉見町『吉見町史 上巻』1978
- 嵐山町『嵐山町史』1983
- 嵐山町『丘陵人の叙事詩—嵐山町の原始・古代—』嵐山町博物誌第四巻 考古・歴史編 2003
- 渡辺久生『野本東部遺跡群発掘調査報告書—下道添・東町・古吉海道遺跡—』東松山市文化財調査報告書第16集 東松山市教育委員会 1981
- 渡辺久生・宮島秀夫『観音寺遺跡（第4次）』東松山市遺跡調査会調査報告書第1集 東松山市遺跡調査会 1996